



Glocal

県費奨学生配置センター機関紙 “グローバル”

Think globally, act locally.

November
2014

Vol.

2

Glocal (グローバル) : 地域貢献を果たしながら、同時により広く社会・世界に成果を還元していく姿勢を端的に表現した造語です。

特集 座談会

現役県費奨学生の本音トーク 県費奨学生制度を利用してみて

- 2 3分でわかる「県費奨学生配置センター」
- 3 ようこそ市立奈良病院へ
- 6 特集「現役県費奨学生の本音トーク」
- 7 医療の風
奈良県の小児科医療の現状
- 8 News & Information



奈良県



奈良県立医科大学

Nara Medical University

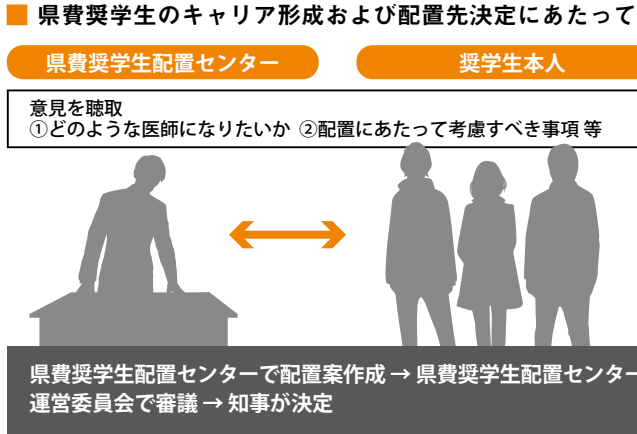
3分でわかる 「県費奨学生配置センター」

県費奨学生とは？

- ① 県の運営する医学生に対する修学資金や医師に対する研修資金の貸与を受けた人のことです。
- ② 貸与制度は次の2制度からなり、いずれも、医師が不足するへき地や産婦人科、小児科、麻酔科、救急科、総合診療科、救命救急センターにおいて、知事が指定する医療機関で貸与期間の1.5倍の義務期間を勤務した場合には貸与金全額の返還を免除することとしています。
- ③ 奈良県緊急医師確保修学資金（平成19年12月制定）
対象者 奈良県立医科大学及び近畿大学医学部の特別推薦枠入学者
貸与要件 卒業後、県内の臨床研修病院で研修を行い、へき地医療機関又は特定診療科等で勤務を行うこと。
- ④ 奈良県医師確保修学研修資金（平成20年3月制定）
対象者 医学生、研修医（特定の医科大学や研修病院ではない。）
貸与要件 臨床研修終了後、へき地医療機関又は特定診療科等で勤務を行うこと。

県費奨学生の配置先は？

- ① 原則、公立医療機関や公的病院を対象としています。具体的には、公立病院やへき地公立診療所の外に済生会病院やJCHO大和郡山病院などです。
- ② また、県費奨学生が医師として十分な知識や技術の修練ができるよう、奈良医大附属病院などについては、研修先医療機関として勤務を行うこととしています。



キャリアパス例（専門医養成コースの場合）

※医師確保修学資金貸与者の場合

区分	卒後3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	11年目
臨床研修	総合医療研修	専門医療研修			専門医療				
	総合医療研修病院	専門医療研修病院			県内公立・公的病院				

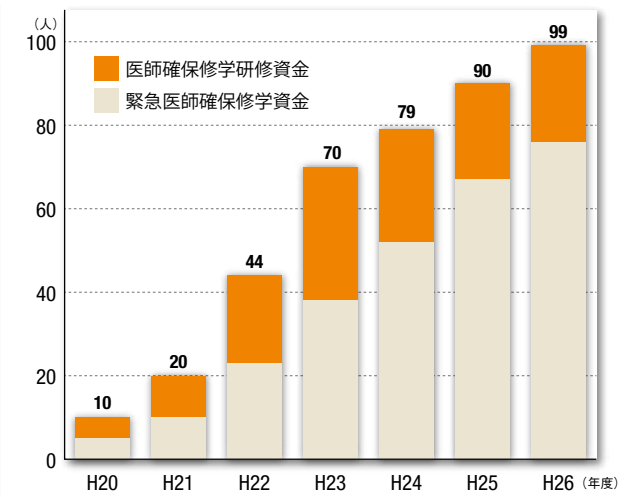
【総合医療研修】：「まず診る」という姿勢を持ち、全人的医療が出来る医師に必要な診療能力を養うため、総合診療科や救急科等で研修を行うプログラムです。平成24年度以降の貸与者は必修です。（緊急医師確保修学資金貸与者も同様です。）

※義務履行中に規定の範囲内で奈良県立医科大学附属病院等での追加研修可。
※キャリアパスの詳細については、地域医療学講座発行のガイドブックをご覧ください。お気軽に県費奨学生配置センターにお問い合わせ下さい。

県費奨学生配置センター年表

平成19年(2007年)	12月	奈良県緊急医師確保修学資金制度制定
平成20年(2008年)	3月	奈良県医師確保修学研修資金制度制定
平成21年(2009年)	12月	債務免除の対象診療科に「救命救急センター」を追加
平成22年(2010年)	10月	地域医療学講座設置
平成23年(2011年)	10月	臨床研修終了後1年目の「総合医療研修」「地域医療研修」必修を募集要項に記載
	11月	条例施行規則改正 債務免除の対象診療科に「総合診療科」「救急科」を追加
平成25年(2013年)	3月	キャリアパス策定
	10月	県費奨学生配置センター（奈良県地域医療支援センター キャリア支援部門）設置
平成26年(2014年)	4月	県立医大医師派遣センター設置 「貸与を受けた医師の勤務等に関する要綱」策定

両制度の貸与者数



ようこそ市立奈良病院へ

市立奈良病院は旧奈良市街にあり、観光客でにぎわう奈良公園や東大寺まで徒歩で行ける距離にあります。当院は、平成16年12月、国立奈良病院の経営移譲により『市立奈良病院』となり、公益社団法人である地域医療振興協会が運営しています。2014年7月、最新の機器を備えた新病院に建て替わり、病床数やスタッフも増えました。現在、さらにより身近で、かつ、高度な医療を担う病院として活躍しています。



「救急医療体制への貢献」と「地域に密着した医療」

『総合診療』×『専門医療』の
コラボレーション

2004年12月、伝統ある旧国立奈良病院から公設民営というユニークな経営スタイルで生まれ変わった市立奈良病院は、今年でちょうど10周年を迎えました。10年前、我々が掲げた目標が「救急医療体制への貢献」と「地域に密着した医療」でした。

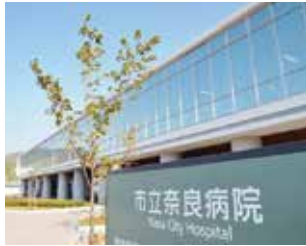
従来、日本のへき地医療は、赤ひげ先生と呼ばれるような献身的な個人の医師に、また、救急医療は36時間連続労働を余儀なくされる中、奮闘する一部の勤務医らによって何とか支えられてきました。しかし、それらの献身的医師は次第に疲労し、医師の①価値観の変化②専門

科分化③都市偏在化が加わり、日本の地域医療は危機に瀕しました。地域医療振興協会は、全国の困っている地域を支援することを使命として1986年に設立された法人です。現時点で、63の施設を運営、年間延べ5967日（平成25年度実績）のへき地支援を行っており、日本の地域医療のリーダーシップを担っています。

奈良市としての、地域医療において、我々が最重要課題と考えたのが『救急医療体制の充実』でした。我々の病院の規模を考え、「救急搬送の9割を占めると言われている、軽症・中等症の症例」を、確実に受け入れる機関となるべく奈良県で初となる本格的な「ER体制」を目指してきました。この体制を構築するためのキーワードが、『総合診療科と専門諸科のコラボレーション』で

市立奈良病院

住所：奈良県奈良市東紀寺町一丁目50番1号
TEL：0742-24-1251
FAX：0742-22-2478
URL：
http://www.nara-jadecom.jp
病床数：350床
診療科目：
内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、血液内科、心療内科、糖尿病内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、脳神経外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、臨床検査科、麻酔科（26診療科）



す。10年目を迎えた現在、関西でも屈指の規模を誇る14名が在籍する総合診療科へと成長。消化器・肝臓病センター、脳・神経センター、四肢外傷センター、ICU/CCUを備え、24時間365日、不応率5%未満の「ER体制」が日々現実のものとなっています。

そのような環境の元、自然と良質な教育を提供することが可能となってきました。平成26年度現在、初期研修医15名、後期研修医10名を養成しており、来年度は、さらに定員を増やす予定です。次の10年の目標は、奈良の地域医療を担う使命を負った「あなた」を育てることです。皆さん、『21世紀型の地域医療』を共に目指しましょう。

現役県費奨学生の本音トーク 県費奨学生制度を利用してみて



県費奨学生制度を知ったきっかけは？

山中 私が医学部を受験しようと思い大学入試情報を集めていた高校生の中に、高校の入試広報部の壁に奈良県立医科大学（以下、奈良医大）の県費奨学生制度の募集要項が貼り出されていて、そこでこの制度について知りました。奈良医大のHPでも情報を得ましたが、私の場合は高校の広報によって制度を知ることになりました。

松村 この制度は奈良医大に入学を希望する人が入試前に知ることになりますね。県費奨学生制度の中で緊急医師確保というのは入学制度の中では特別枠なんです。

山中さんは今研修医ということで、それから、今から7年ほど前に受験されたということですね。

松村 当時、奈良県内では小児科や産婦人科などで医師不足が深刻となり、さまざまな問題が生じていたときですね。この制度は医療の地域偏在、診療科偏在を解消し、医師不足を解消する目的でつくられた制度でもあるんですよ。

松村 山尾さんの場合はどうでした？

山尾 私の場合は、同じ高校の一つ上の先輩がこの制度を利用して奈良医大に入学したので、事前に先輩の話を聞く機会があり、その際、自分にとって良い制度

だということを知りました。

松村 大学に同じ制度を利用している先輩がいるという話を聞けるから安心ですね。

山尾 はい。高校の先輩が大学にいて安心ですし、私自身が奈良県で生まれたので、奈良医大は私にとって身近な存在でした。そういったこともあり、奈良医大を県費奨学生制度で申し込み受験しました。

松村 小島さんは？

小島 私はHPだったと思います。奈良医大が家から一番近いということと、もともと私は高1のころから奈良医大が第一志望でしたので、HPで受験情報を確認していました。受験の科目など替わっていないかなど更新状況を見ていたときに、「県費奨学生制度」という推薦枠が出来たことを知りました。

西和田 医学部に行きたいと思っている高校生には魅力的な制度ではあると思いますね。何科の医師になりたいという希望がある子は特に。私は自治医大出身



教授
松村 雅彦 氏
地域医療学講座 教授
県立医大医師派遣センター
副センター長
県費奨学生配置センター
副センター長



医師
西和田 敏 氏
自治医科大学医学部卒業後、9年間の義務年限を奈良県で勤務。本年（2014年）3月に義務終了。現在は奈良県立医科大学附属病院 消化器・総合外科医局に在職中。

で、9年間の義務期間を終えて今年から奈良医大で外科医をしています。私から見てもこの制度は良いことづくしな感じがします。

実際県費奨学生制度を利用してみて思ったこと

山中 私は祖父が産婦人科医をしていたので、自分も産婦人科医になりたいと思い医師を目指しました。受験当時、この制度のことはよくわかっていませんでしたが、特定診療科には、産婦人科が含まれていましたので、自分が希望する科であるという理由もあり、この制度を利用しようと思ったのです。

ところが産婦人科医希望のまま5年生以降になり、ポリクリ（※1）でいろんな科を回るようになったときに、専門にしたい診療科が心変わりしていくようになりました。このまま産婦人科希望でいいのかと。そう思ったときに制度上の壁があり、コース指定外の診療科を希望出来ないことに対し、葛藤が起きましたね。

西和田 自治医大の場合、へき地の研修に行ったあとに自分はこの科に変更したいと心変わりした人もいましたよ。まれにそういう人もいるので、その辺りは難しいことはありません。

松村 山中さんはポリクリでいろんな科を回るうちに心変わりした経験があるということですが、具体的にはどのようなことでしょうか。

山中 たとえば、スーパーローテート（※2）でいろんな科を回っていて、この科にもう一度行きたいと思ったときに再度その科を選択しにくかったり、先生方に「うちの科はどうか」とスカウトして頂くことがあります。そのときに自分の行きたい科の場合、県費奨学生なので指定された科以外は受けられないということを経験しています。

松村 この科はダメなんですか。

山中 はい。ダメとは言にくいですが。松村 先生たちは学生や研修生のうち、どの子が県費奨学生であるかまでは把握していないことが多いでしょうね。

山中 西和田先生のような自治医大出身の人は、入学当初からへき地へ行くことが条件です。学生や研修生のうち、施設実習をするときや、研修医になったときに行く先が決まっていますよね。

西和田 そうですね。

山中 ポリクリのときにローテーションして困ったことはありませんか。この科に

行きたかったけれど、自分では行く先を選べなくて仕方がないと思ったことなど。

西和田 外科医は、へき地にいくことがマイナスだと言われる科なんです。県立奈良病院で研修をしていた頃は何科医になりたいなど考える余裕もなく、いっぱいいっぱいで終わりました。3年目に五條病院に赴任したときには、「へき地医療支援部」という所へ行き、へき地の診療所で一人で診療ができるための研修を受けました。そして4年目、5年目にはへき地へ帰りました。6年目、7年目に外科で働いたあと、8年目、9年目にもう一度へき地へ行かなければならなかったとき、同期で入った人と比べると外科の手術などの技術面に遅れが出てくるんですよね。なので、そこであせりがなかったといえは嘘になります。

そういう面でいうと、皆さんのような県費奨学生制度の人は自分の決めた科に行けるわけですし、それで義務を果たせるというのは羨ましいことですね。

松村 山尾さんや小島さんはこの制度を利用して、今のところは特に後悔はありませんか？

山尾 はい。私は小児科希望で入学したのですが、今は産婦人科が麻酔科を希望しています。他の科でしたら迷いが生じたと思いますが、幸い、どちらも特定診療科に入っているのです。その点では自分の希望と制度がマッチして

いるのが現状です。

小島 私も小児科希望で入学しました。その後小児科も、産婦人科も、麻酔科も女医さんが多い科だと知りました。この制度を受けていない女子学生の中でも、小児科はすごく人気の科と聞きます。そういう意味では特定診療科に小児科が含まれていることはラッキーだったと思います。

山尾 たまたま医学部に入学前から小児科を志望していて、入ってから特定診療科に女性の先生が多いことを知ったのですが、私たち学生からすると、この3つの科は働きやすいと思うんです。女性として仕事1本というよりは、結婚も出産も経験している女性の先生が多い科は一つの選択肢ではありますね。

県費奨学生配置センターに望むこと

山中 研修医として義務を勤めていくにあたり、センターがあることで他の学生や研修医の意見交換の場や交流の場を設けていただいたり、困ったことがあった



研修医
山中 彰一郎 氏
大阪星光学院高校出身
（大阪府出身）



医学科6年
山尾 佳穂 氏
西大和学園高校出身
(奈良県出身)

ときの相談窓口になっていただけると助かります。

松村 特定診療科という枠組みの中で、ある程度自分が行きたい科を選んでいくことができるわけですが、逆に自由に選べるからこそ、迷いが生じるということもあるかと思っています。医局に入りたいときの交渉などがありますからね。そういうときにセンターに相談してもらえたらと思います。

山尾 私たちの一つ上の先輩の話では、制度が出来上がっていなくて制度のことについて誰に聞きたいかわからないと言っていました。そういう意味ではこの配置センターができたことで、2年生の学生は入学して、どんな制度だろうと思えばすぐに聞きたい場所があるので、学生にとってこのセンターがあることはうれしいことだと思います。

小島 この病院に行つてほしいというのは、医局が思っている小児科医不足というのと、県が思っている小児科医が少ないうというは違うものですか。

西和田 どうなのでしょう。立場としては県から小児科医に行つてくれと辞令を出すわけではないですね。

松村 最終的には県が出すんですけれども、そこへ行くまでに医局が絡んでくるんですね。それをセンターの方で調整していくんです。ただ、不足しているかどうかというところになると、やっぱり一番わかっているのはその診療科になりますね。

西和田 県からあそこへいきなさいというのと、医局からあそこへいきなさいと言われ、変にはさまれてしまったときに、皆さんの希望に合うように、うまく取り持つて下さるのがセンターであつてほしいですね。

私たちは上からの指示に従うわけですが、別のところからも言われたらどうしたらいいかわからなくなりそうですね。そういうときに間に入つてもらつて、やりとりしてくれるら有り難いと思います。

松村 そうですね。今までのところはそのような相談はありませんでしたが、不足といつてもいろんなケースがありますし、どこに行つても奨学生の人もいればそうでない人もいますので、医局と相談しながらバランスよく決めていくことになりますね。

山中 今後、どこかの科に行きたいという希望があつたときに、上の先生に直接交渉するのは難しいことですので、配置セ

ンターには、そういったときのサポートをしていただきたいですね。

将来の展望

山中 まだ研修医で今後のことはわからないですが、9年の義務年限を終えるまでは不足している科などで精一杯勤めて、その後はお世話になった人たちに恩返しができるような形で働いていけたらと思っています。

山尾 まだ将来まではわからないですが、この制度を利用して頂いている身としては、義務を守りますという約束をして入っていますので、医大という大きな病院の中でも先生が足りなくて忙しいところへ行くのが使命としてあると思っています。9年という決められた年限の中で、医療に貢献する目的で入りしたので、私は今後も初志貫徹していきたいです。

小島 私も具体的にはわからないですが、。義務年限は9年と言われているますが、自治医大の先生方と違って、医局と県の方が行つてほしい病院に9年間勤めていくことになるわけですが、それは推薦入学の学生じゃなくても、医局の意向でどこかの病院に行くこともあり得ると思うのです。また、義務年限が終わつても医局の意向で、どこかの病院へ行くこともあると思います。なので、私は9年という枠にとらわれず、義務年限が終



奈良県の小児医療の現状

嶋 緑倫・西久保 敏也



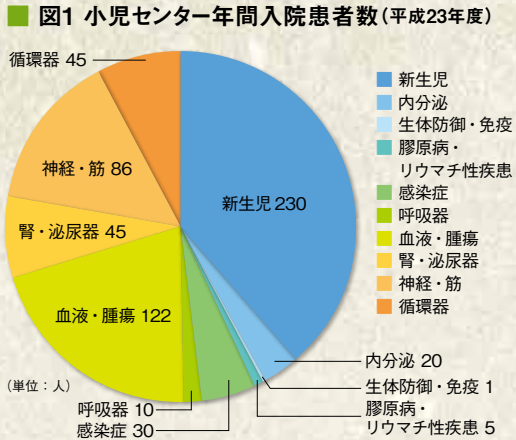
嶋 緑倫 氏
Shima Midori
奈良県立医科大学
小児科 教授
研究領域・専門分野：
血栓止血学、小児発達神経



西久保 敏也 氏
Nshikubo Toshiya
奈良県立医科大学
総合周産期母子医療センター
新生児集中治療部門 准教授
研究領域・専門分野：
新生児学、臨床遺伝学

① 奈良医大小児科診療の概況

奈良県では全国にさきがけて小児救急2次輪番体制が整備され、1次から3次まで対応可能である。また、奈良医大小児センターは高度小児医療を実践することも病院としての機能も担っている。新生児医療では奈良医大総合周産期母子医療センターNICUと奈良県総合医療センターNICUで県下をカバーしている。しかしながら、病院常勤勤務医のマンパワー不足や高齢化など課題も多く、地域完結型小児医療や救急医療の実践の維持が困難になりつつある。



② 奈良県小児救急医療体制

① 1次救急医療体制

昭和49年に橿原市に休日応急診療所が開設された。昭和50年代に奈良市や生駒市など、奈良県下でも各地域の医師会が中心になり休日夜間応急診療所が次々に開設された。現在、11の診療施設が稼働している。平日から休日の深夜の時間帯まで対応しているのは橿原市休日夜間応急診療所、奈良市立休日夜間応急診療所と生駒メデイカルセンター休日夜間応急診療所の3施設の

みである。橿原市休日夜間応急診療所は中南和各地区からの1次患者を受け入れており、広域1次診療施設として機能している。

② 2次救急医療体制

近年、小児の救急医療のニーズは益々高くなっている。しかしながら、小児科医のマンパワー不足、小児医療の不採算性による小児科の閉鎖や縮小、救急医療システムの不備など様々な原因により、小児の救急医療は全国的にも厳しい状況にある。奈良県では昭和55年より県立奈良病院が中心となつて北和地区公立4病院が自主的に小児救急の輪番体制を開始した。平成8年から奈良県の小児医療圏を小児人口や病院数により北和医療圏と中南和医療圏の2地区に分割し、県下の公立病院を中心に全県下での輪番体制が整備された。3次小児救急施設は奈良県立医科大学と近畿大学奈良病院小児外科が担当した。平成10年後以降、小児の輪番病院受診患者は年々増加し、平成18年までは北和南和両地区とも年間1万人に達した。しかしながら、入院を要した患者は10%未満と軽症患者が多く、1次救急体制の整備が望まれた。現在、北和地区には奈良県総合医療センター病院、市立奈良病院、済生会奈良病院、奈良県西和医療セ

わたた途端に人が足りないところへ行かないで好きなところで働くとかではなく、今後医師が必要などところで働いていくのだろうと思っています。

※1 ポリクリ

多くは5年次から1年〜1年半程度、大学附属病院。あるいは市中病院などの院外施設で臨床実習を行う。ほぼ全ての診療科を少人数グループで一通り全て回る。俗に「ポリクリ」「ポリクリニック」や「クリクラ」「COS」(クリニカル・クラッシュ)などと呼ばれる。

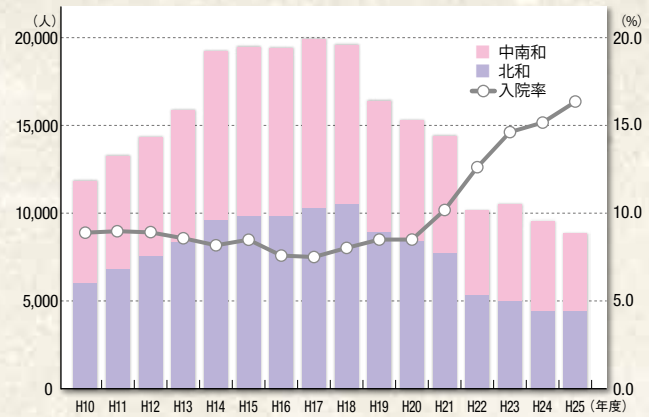
※2 スーパーローテート方式

平成16年度から必修化された新しい臨床研修的方式で、インターン制度以来35年ぶりの抜本的改革と云われている新しい臨床研修制度の趣旨は、医師としての基盤形成の時期に、医師としての人格を涵養し、プライマリ・ケアの理解を深め、患者を全人的に診察することが出来る基本的な診療能力を修得するとともに、アルバイトをせずに研修に専念できる環境を整備することにある。従つて、将来何科を専攻するかに関係なく、卒後2年間は、内科・外科以外に、麻酔・救急、小児科、産婦人科、精神科、地域医療(診療所、老人介護施設、保健所)など、プライマリ・ケアに必要な科を広くローテートして研修を受けること(スーパーローテート)が義務づけられている。



医学科6年
小島 由佳 氏
京都教育大学附属高校出身
(京都府出身)

図2 小児輪番患者の推移



状であり、マンパワーが絶対的に不足している。平成19年度から輪番病院受診患者数が減少しているが、入院率はかえって上昇している(図2)。これは、平成19年から橿原市休日診療所等で1次診療時間が平日の夜間の時間帯も対応できるようになったこと、#80000番の電話相談によるいわゆる0.5次対応が本格的に稼動したこと、軽症患者が減少したことが原因と考えられる。2次輪番医療を継続するためには小児科医のマンパワーの確保と1次診療の整備が必須であるが、今後は集約化も必要になってくるかもしれない。小児医療は地域完結型医療のニーズが高いが集約化も検討せざるを得ない。

3 総合周産期母子医療センター 新生児集中治療室

当施設は奈良県唯一の総合周産期母子医療センターNICUである。診療は、低出生体重児を中心に、小児外科疾患、先天性心疾患、脳神経外科疾患など、新生児期に発症した児の治療を関連各科と連携を取りながら行なっている。救命が困難だった出生体重500g未満の児も生存例が増えてきている。最近、350gの児の外科手術にも成功し、奈良医大の診療レベルの高度化が、NICUに入院した児の救命にも寄与している。平成28年には新C棟に移動し、ベッド数51床で稼働する予定である。

News & Information

奨学生の支援体制

奈良県と奈良県立医科大学は、県費奨学生のキャリア形成を継続的に支援していくため、平成25年10月に「県費奨学生配置センター」を大学本部棟に設置しました。貸与期間中及び義務期間中を通し、進路に関する相談等については、県費奨学生配置センターが担当します。将来の勤務や研修など不安があれば、いつでも県費奨学生配置センターへご相談ください！

配置決定までのスケジュール

11月～12月	配置予定者の意向確認
12月～1月	専門診療科医局、公立公的病院との調整
2月上旬	県費奨学生配置センター運営委員会での配置案の策定
2月中旬	県(知事)への配置案の提示
3月上旬	配置先病院および配置予定者に連絡

夏休みメンター実習の報告会

教育開発センター主催の夏休みメンター実習報告会が10月に厳樫会館で開催されました。メンター実習とは、長期の休暇を利用して実際の臨床の現場に出かけ、現場を見学、介助者として活動もし、現地医師から指導を受ける実習で、緊急医師確保修学生、医師確保修学生については、全員にメンター医師が割り当てられます。その実習に行かれた緊急医師確保修学生、医師確保修学生の1年から4年の学生さんが報告をされました。実習に行かれた診療所や診療科等は違いますが、みなさんが次の実習に役立てたいとおっしゃっていました。

志望診療科のアンケートの実施

緊急医師確保修学資金、医師確保修学資金の貸与を受けている(受けていた)みなさんへ志望診療科のアンケートを実施させていただきました。回答いただいたみなさま、ありがとうございました。このアンケートは、修学資金制度の運用やキャリアプランの設計の参考にするためであって、将来勤務する診療科や医療機関を決めるものではありません。今後も奈良県の医師不足の解消のため定期的にアンケートを実施したいと思います。奈良県の医療を支えていく県費奨学生としてアンケートのご協力をお願いします！奈良県と県費奨学生配置センターは連絡先等の一部情報を共有しています。貸与申請時の登録アドレスに送っていますが、一部の方のアドレスに送信出来ませんでした。登録アドレスを変更された場合は随時センター(E-mail: kenpi@naramed-u.ac.jp)へお知らせください。

アドレス情報等の情報共有について

貸与手続において奈良県が保有する個人情報については、県費奨学生配置センター及び地域医療学講座と共有し、キャリア形成支援のための活動に使用させていただきます。配置の相談をはじめ、キャリア支援、情報提供のためにメールや電話で連絡を取っています。申請時のメールアドレスや電話番号を変更された場合は随時当センターにご連絡ください。

編集後記

10月23日で県費奨学生配置センター設置から1年が経ちました。しかし、まだまだ知名度の低いセンターです。県費奨学生のみならず、お気軽にお立ち寄りください！



公立大学法人奈良県立医科大学 県費奨学生配置センター
〒634-8521 奈良県橿原市四条町 840
TEL : 0744-23-9111 FAX : 0744-23-9966
mail : kenpi@naramed-u.ac.jp

